VI 鑑賞券・グッズ

鑑賞券

（1）販売期間

前売引換券：2019年5月27日（月）～9月26日（木）
鑑賞券：2019年9月27日（金）～11月24日（日）

（2）販売箇所

前売引換券：コンビニエンスストア端末、プレイガイド、ホテル、旅行代理店、オンライン
鑑賞券：旧内山下小学校、オリエント美術館、岡山駅前インフォメーションセンター、オンライン（一般鑑賞券のみ販売）
※オンラインチケットで購入した引換券（バウチャー）は、「旧内山下小学校」のみで鑑賞券に引換。

販売代理店名		前売引換券	鑑賞券
コンビニ等	ローソンチケット（Lコード63154）	バウチャー	—
	チケットぴあ（Pコード992-316）	バウチャー	—
プレイガイド	ぎんざや	前売引換券	—
	てんまやバスステーションチケットセンター	前売引換券	—
	インディスク	前売引換券	—
	アルスくらしき	前売引換券	—
ホテル	ホテルエクセル岡山	前売引換券	—
	ホテルグランヴィア岡山	前売引換券	—
旅行代理店	リョービツアーズ	前売引換券	—
	JTB	バウチャー	—
チケットセンター	山陽新聞社サービスセンター内	前売引換券	—
オンライン	岡山芸術交流2019公式ホームページ	バウチャー	バウチャー
会場	岡山駅前インフォメーションセンター	—	鑑賞券
	旧内山下小学校	—	鑑賞券
	オリエント美術館	—	鑑賞券

鑑賞券販売所（旧内山下小学校）

鑑賞券販売所（駅前インフォメーションセンター）

鑑賞券販売所（オリエント美術館）

鑑賞券

（3）券種・区分・料金

	前売引換券	鑑賞券	備考
一般	1,000円	1,800円	
一般(県民)	—	1,500円	
学生(専門学生・大学生)	—	1,000円	
シルバー(満65歳以上の方)	—	1,300円	
団体(8名以上の方)	—	1,300円	お1人様あたり
単館	—	500円	
招待券	—	—	

前売引換券

表面

裏面

会期中鑑賞券

一般鑑賞券 外面

内面 共通

一般鑑賞券(県民)

学生鑑賞券(専門学生・大学生)

シルバー鑑賞券(満65歳以上の方)

団体鑑賞券(8名以上の方)

単館鑑賞 表

裏

招待券

鑑賞券

（4）引換・有効期間

◇前売引換券は、会期中、有料会場（岡山城廊下門以外）にて鑑賞券に引換。
◇鑑賞券は、会期中、1枚につき1名様のみ有効で各会場入場当日のみ再入場可能。
◇一般（県民）、学生、シルバーは購入時に学生証や身分証などの提示が必要。
◇高校生以下で学生証をお持ちの方、障がい者手帳・療育手帳等をお持ちの方とその付き添いの方1人、
　その他、実行委員会が必要と認めた方は無料。
◇団体鑑賞券は有料鑑賞者8名以上で構成される団体が対象（一般・学生の混在可）
◇単館鑑賞券とは、1会場のみに入場できる鑑賞券。

（5）販売状況

前売引換券

（単位：枚）

販売	一般	県民	学生	シルバー	団体	単館	合計
事務局	28,039	—	—	—	—	—	28,039
代理店	2,121	—	—	—	—	—	2,121
オンライン	691						691
小計	**30,851**	—	—	—	—	—	**30,851**

鑑賞券

（単位：枚）

販売	一般	県民	学生	シルバー	団体	単館	合計
会場	3,012	2,356	711	532	152	2,975	9,738
オンライン	172	—	—	—	—	—	172
小計	**3,184**	**2,356**	**711**	**532**	**152**	**2,975**	**9,910**

公式グッズ・カタログ

◎公式グッズ

人気イラストレーターの長場雄氏がイラストを担当、アートディレクター川上シュン氏がデザインに落とし込んだ公式グッズを販売した。アーティスティックディレクターであるピエール・ユイグの過去作品に登場する犬と岡山ゆかりの建築家をモチーフとして使用。また、ロゴマークをあしらったグッズも販売した。
◇販売場所 旧内山下小学校、オリエント美術館、岡山駅前インフォメーションセンター、CCCSCD

トートバック黒(建築家)
大 4,900円　中 3,900円　小 1,900円

トートバック黒(犬)
大 4,900円　中 3,900円　小 1,900円

トートバック白(建築家)
大 4,900円　中 3,900円　小 1,900円

マイバッグ(建築家) 各990円

マイバッグ(犬) 各990円

マイバッグ(OKロゴ) 各790円

Tシャツ(建築家 白・黒) 各3,900円

Tシャツ(犬) 3,900円

キャップ(建築家・犬) 各2,900円

フーディ(建築家 白・黒) 各4,900円

フーディ(犬 白・黒) 各4,900円

公式グッズ・カタログ

タンブラー 各2,400円

マグカップ 各1,900円

クリアファイル 各500円

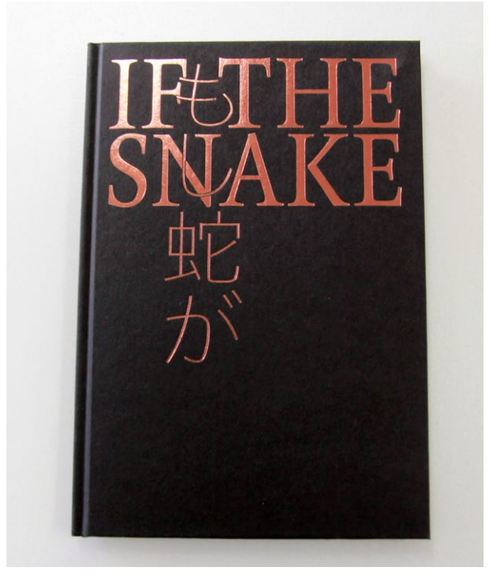
ステッカー 各200円

缶バッジ 各200円

◎カタログ

「岡山芸術交流2019」アーティスティックディレクターのピエール・ユイグ監修のもと、参加アーティストと作品を紹介するカタログを発行した。
監修・執筆:ピエール・ユイグ
編集:アンヌ・ステンヌ、柴原聡子

[発 行 日] 9月27日(金)
[判 型 等] B5、80ページ
[販 売 額] 2,000円(スーベニアショップ、Amazon等で販売)
[企　画] 岡山芸術交流実行委員会
[発 行 部 数] 2,000部
[アートディレクション] ドヴァランス
[デ ザ イ ン] ドヴァランス、木村稔将



Ⅶ プログラム・イベント

地域への普及

学校連携

学校来場
県内小中高等学校76校（延べ来場校数100校） 約4,800人の児童・生徒が校外学習や部活動等で来場し、鑑賞を行った。

バス代の一部負担
事前申し込みのあった県内小中学校46校を対象に、学校と会場間の往復交通費（団体バス代）の一部負担を行った。
（1台あたり5万円を上限）

鑑賞支援（学校鑑賞ナビゲーターによる対応）　育成協力：みるを楽しむ！アートナビ岡山
希望のあった学校には対話による鑑賞（23校）や会場内でのアテンド（21校）、ガイダンス（10校）を実施した。学校対応のために、研修を重ね、学校鑑賞ナビゲーター（サポートスタッフ）を育成し学校の対応に当たった。

日付	学校	学年（学級数）	児童生徒数（引率者数）	備考
9月27日（金）	岡山市立幡多小学校	3学年（4学級）	151人（ 9人）	アテンド
	真庭市立美川小学校	3・4学年（2学級）	36人（ 3人）	アテンド
	新見市立神郷北小学校	1〜5学年（4学級）	33人（ 8人）	アテンド
9月28日（土）	新見市立井倉小学校	1〜5学年（4学級）	22人（ 4人）	対話による鑑賞
	新見市立新見南小学校	4・5学年（2学級）	63人（ 5人）	
10月 2日（水）	高梁市立有漢西小学校	全学年（7学級）	55人（10人）	
	倉敷市立旭丘小学校	5学年（2学級）	52人（ 5人）	アテンド
	岡山市立政田小学校	2学年（1学級）	42人（ 4人）	対話による鑑賞
	岡山市立城東台小学校	4学年（1学級）	40人（ 3人）	
10月 3日（木）	岡山市立城東台小学校	6学年（2学級）	48人（ 3人）	
	岡山市立庄内小学校	6学年（3学級）	97人（ 6人）	アテンド
	ノートルダム清心女子大学付属小学校	6学年（2学級）	68人（ 2人）	ガイダンス
	岡山市立御津南小学校	3学年（1学級）	31人（ 3人）	アテンド
	岡山市立岡山後楽館中学校	美術部	12人（ 1人）	
10月 4日（金）	あおぞら操山		10人（ 6人）	
	真庭市立草加部小学校	1〜4学年（5学級）	22人（ 5人）	
	真庭市立草加部小学校	5・6学年（2学級）	18人（ 3人）	対話による鑑賞
10月 5日（土）	岡山市立灘崎中学校	美術部	14人（ 1人）	
10月 6日（日）	岡山市立芳田中学校	美術部	11人（ 1人）	
10月 8日（火）	岡山市立大宮小学校	1・3〜5学年（3学級）	12人（ 3人）	対話による鑑賞
	倉敷市立茶屋町小学校	5学年（6学級）	203人（ 9人）	
10月10日（木）	浅口市立金光吉備小学校	3学年（1学級）	30人（ 3人）	対話による鑑賞
	新見市立塩城小学校	1〜4学年（3学級）	22人（ 6人）	対話による鑑賞
	鏡野町立富小学校	全学年（3学級）	17人（ 5人）	
	勝央町立勝央北小学校	5学年（1学級）	37人（ 3人）	対話による鑑賞
10月11日（金）	倉敷市立霞丘小学校	1〜5学年（3学級）	8人（ 5人）	対話による鑑賞
	倉敷市立南浦小学校	2〜6学年（3学級）	12人（ 5人）	対話による鑑賞
	鏡野町立上齋原小学校	3〜6学年（2学級）	7人（ 4人）	対話による鑑賞
	新見市立矢神小学校	1〜5学年（3学級）	20人（ 5人）	
	玉野市立玉小学校	5学年（1学級）	20人（ 3人）	
	美咲町立柵原西小学校	6学年（1学級）	29人（ 2人）	
10月15日（火）	岡山市立豊小学校	5学年（1学級）	39人（ 3人）	アテンド・休館日対応
10月16日（水）	岡山市立岡山中央小学校	2学年（4学級）	120人（ 7人）	ガイダンス
	朝日塾中等教育学校	全学年（3学級）	85人（ 8人）	ガイダンス
10月17日（木）	岡山市立平島小学校	5学年（1学級）	40人（ 3人）	対話による鑑賞
10月18日（金）	総社市立池田小学校	1〜4学年（3学級）	23人（ 6人）	
	高梁市立成羽小学校	5・6学年（2学級）	50人（ 5人）	ガイダンス
	赤磐市立山陽小学校	4学年（2学級）	51人（ 4人）	
	岡山市立御津南小学校	4学年（1学級）	30人（ 3人）	アテンド
	中国デザイン専門学校	高等教育課程	31人（ 2人）	
10月20日（日）	岡山市立芳田中学校	美術部	10人（ 1人）	

日付	学校	学年(学級数)	児童生徒数(引率者数)	備考
10月23日(水)	岡山市立岡山中央小学校	1学年(2学級)	65人(5人)	アテンド
	岡山市立第二藤田小学校	3学年(2学級)	46人(4人)	アテンド
	岡山市立旭操小学校	3学年(3学級)	93人(5人)	ガイダンス
10月24日(木)	岡山市立岡山中央小学校	1学年(2学級)	65人(5人)	アテンド
	岡山市立浮田小学校	2学年(1学級)	33人(2人)	アテンド
10月25日(金)	岡山市立操明小学校	全学年(4学級)	33人(6人)	
	岡山市立開成小学校	1学年(1学級)	18人(2人)	ガイダンス
	岡山市立開成小学校	3学年(1学級)	29人(2人)	対話による鑑賞
	岡山大学教育学部附属小学校	5学年(1学級)	35人(3人)	ガイダンス
	岡山市立建部小学校	5学年(1学級)	22人(3人)	対話による鑑賞
10月26日(土)	岡山市立中山中学校	美術部	20人(1人)	
	岡山県立岡山南高等学校	美術部	13人(1人)	
10月27日(日)	岡山市立上道中学校	美術部	15人(2人)	
	岡山市立岡山中央中学校	全学年(15学級)	370人(30人)	
10月30日(水)	岡山市立五城小学校	1~4学年(4学級)	32人(6人)	対話による鑑賞
	岡山大学教育学部附属小学校	5学年(1学級)	35人(3人)	ガイダンス
	岡山市立五城小学校	5・6学年(2学級)	20人(3人)	対話による鑑賞
10月31日(木)	岡山市立旭操小学校	全学年(5学級)	37人(40人)	
	岡山大学教育学部附属小学校	5学年(1学級)	35人(3人)	ガイダンス
11月 1日(金)	岡山市立角山小学校	全学年(4学級)	45人(7人)	対話による鑑賞
	岡山市立浮田小学校	5学年(1学級)	33人(2人)	
11月 2日(土)	岡山県立総社南高等学校	美術部	30人(3人)	
11月 5日(火)	岡山市立福田中学校	全学年	138人(10人)	休館日対応
	岡山市立操南中学校	全学年	33人(3人)	休館日対応
	岡山市立竜操中学校	全学年	40人(5人)	休館日対応
	岡山県立岡山操山中学校	全学年	23人(2人)	休館日対応
	岡山市立瀬戸中学校	全学年	10人(3人)	休館日対応
	岡山市立西大寺中学校	全学年	25人(3人)	休館日対応
	岡山市立芳泉中学校	全学年	16人(5人)	休館日対応
	岡山市立興除中学校	全学年	20人(3人)	休館日対応
11月 6日(水)	岡山市立御休小学校	5学年(1学級)	30人(3人)	
	岡山市立岡山後楽館中学校	全学年(6学級)	231人(16人)	
	岡山市立岡山後楽館高等学校	美術部	10人(1人)	
11月 7日(木)	就実小学校	4学年(2学級)	49人(3人)	アテンド
11月 8日(金)	岡山市立竹枝小学校	全学年(4学級)	33人(7人)	対話による鑑賞
	就実小学校	5学年(2学級)	34人(3人)	ガイダンス
	岡山市立石井中学校	全学年	20人(1人)	
11月 9日(土)	岡山市立操山中学校	美術部	30人(2人)	
	倉敷市立多津美中学校	美術部	13人(1人)	
11月10日(日)	倉敷市立連島中学校	美術部	15人(1人)	
11月12日(火)	岡山市立御津南小学校	5学年(1学級)	22人(3人)	アテンド
	岡山県立岡山東商業高等学校	1学年(8学級)	319人(16人)	
11月13日(水)	岡山市立岡山中央小学校	3学年(2学級)	65人(3人)	アテンド
	岡山市立岡山中央小学校	6学年(5学級)	173人(7人)	アテンド
11月14日(木)	倉敷市立二万小学校	5学年(1学級)	14人(3人)	対話による鑑賞
	岡山市立興除小学校	5学年(3学級)	37人(3人)	アテンド
11月15日(金)	岡山市立朝日小学校	1・2学年(2学級)	18人(2人)	対話による鑑賞
	岡山市立岡山中央小学校	3学年(2学級)	67人(3人)	アテンド
	岡山市立旭東中学校	2学年	11人	
11月16日(土)	岡山県立岡山芳泉高等学校	美術部	11人(1人)	
	岡山市立福田中学校	美術部	5人(1人)	
11月19日(火)	岡山市立朝日小学校	6学年(1学級)	12人(2人)	対話による鑑賞
	岡山市立朝日小学校	3~5学年(2学級)	18人(3人)	対話による鑑賞
11月20日(水)	岡山市立岡山中央小学校	4学年(2学級)	77人(2人)	アテンド
	岡山市立岡山中央小学校	4学年(2学級)	77人(2人)	アテンド
	高梁市立高梁東中学校	全学年(3学級)	49人(10人)	
	岡山市立岡山中央小学校	5学年(4学級)	148人(10人)	アテンド
11月22日(金)	岡山市立馬屋下小学校	6学年(1学級)	26人(2人)	対話による鑑賞
	岡山市立平津小学校	6学年(1学級)	33人(2人)	対話による鑑賞
	合計 延べ100校 4,797人(462人)			

地域への普及

学校連携・地域へのアウトリーチ

来場校児童・生徒の感想

[岡山芸術交流について]

●現代アートは自分で想像するのが楽しいと思った。
(岡山市立御休小学校 5年)

●どんな思いで作ったのかなと想像しながら作品をみると楽しかった。(岡山市立朝日小学校)

●次は家族と行ってみたい。(岡山市立浮田小学校 2年)

[作品について]

〈パメラ・ローゼンクランツ「皮膜のプール」〉

●プールの渦巻きを見て「何かが生まれたんだ!」と感じた。
(岡山市立朝日小学校)

〈ティノ・セーガル〉

●最初、お客さんと思った人が「運命」を歌いだしてびっくり。お経のような歌。(岡山市立角山小学校)

〈タレク・アトウィ「ワイルドなシンセ」〉

●目をつぶって音をきいてみたときの音が気に入った。
(岡山市立竹枝小学校)

〈ポール・チャン「トライサゴリアン・ホーガ」〉

●ふわふわした人形が泳いでいるみたいで、楽しかった。
(岡山市立五城小学校)

引率者の感想

●学校鑑賞ナビゲーターの方が丁寧に説明してくださり、児童は1つ1つの作品をしっかり鑑賞していました。

●ダンサー4人によるライブワークが始まり、児童たちは固まっていました。しかし、それがあまりにも印象的だった様子で、その後、ずっとずっとそのリズムを口ずさんでいました。

●子どもたちにとってたくさんの作品にふれる機会となり、とてもよかったです。夢中になって鑑賞することができました。

●作品の見方が人によって違うことが、子どもたちにとっては新鮮だったようです。学校鑑賞ナビゲーターの方が声をかけてくださったおかげと感謝しています。

お気に入りカードで伝えよう!

学校で旧内山下小学校会場に来場した子どもたちが、お気に入りの作品を選んで、お気に入りカードを作成した。お気に入りカードは、岡山県立図書館の「岡山芸術交流2019特設コーナー(ラーニングプログラム)」にて掲示。

[子どもたちのお気に入りランキング]

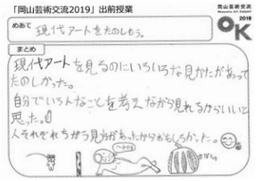
○ 第1位・・・パメラ・ローゼンクランツ「皮膜のプール(オロモム)」
○ 第2位・・・パメラ・ローゼンクランツ「癒すもの(水域)」
○ 第3位・・・タレク・アトウィ「ワイルドなシンセ」

子ども用チラシ(スタンプラリー)

岡山県内の小中高等学校へ全児童生徒(約20万人)に向けてのチラシを配布し、来場を促した。小中学校へは、来場時にスタンプラリーとして利用できる子ども用チラシを作成し配布した。
※高等学校へは通常のチラシを配布

地域へのアウトリーチ「現代アートを楽しもう」

一般市民向けとして、市内の14公民館において、会期前に出前講座を行い、「岡山芸術交流に興味を持った。」や「楽しみ方を理解できたので、会場に出向きたい。」などの意見が多数あった。
子ども向けとして、14校の小中高等学校等において、会期前に出前授業を行った。



パブリックプログラム

～岡山の人・場・文化を開き、発信する～

パブリックプログラムとは、「岡山芸術交流」が地域に開かれ、根ざし、持続・発展することを目的に、岡山内外の人・場所・文化資産の3つのポテンシャルを活かした様々な企画。

“人や場所の発掘と関係性の構築”と“文化資産の活用と発信”を目指して、2016年に築いた人や場所との関係を深化・発展させるとともに、新たな連携・協働プログラムを開発・実施。

プレイベント シンポジウム
「アートが“変える”ひとづくり、まちづくり」

岡山芸術交流2019のプレイベントとしてシンポジウムを開催。基調講演やパネルディスカッションを通じて、アートの持つ可能性や、ひとづくり、まちづくりへの広がりなどとともに、アートの本質を掘り下げた。内容については、2019年4月9日付け山陽新聞朝刊に特集記事で掲載された。

［開催日時］3月15日（金） 19：00～20：30
［タイトル］プレイベント シンポジウム「アートが“変える”ひとづくり、まちづくり」
［ 会 場 ］山陽新聞社 さん太ホール
［登 壇 者］神谷 之康（京都大学大学院情報学研究科教授
ATR脳情報研究所客員室長（ATRフェロー））
大森 雅夫（岡山芸術交流実行委員会会長）
石川 康晴（岡山芸術交流総合プロデューサー）
那須 太郎（岡山芸術交流2019総合ディレクター）
コーディネーター
木ノ下 智恵子（岡山芸術交流2019パブリックプログラムディレクター）
［参加者数］約300人

2019年4月7日 山陽新聞朝刊紙面

パブリックプログラム

トークイベント 岡山神社で“蛇”について語り合う

大森雅夫実行委員会会長と岡山神社の久山信太郎宮司を迎え、木ノ下智恵子パブリックプログラムディレクターの進行のもと、岡山芸術交流2019のタイトル「IF THE SNAKE もし蛇が」の「蛇」について語り合うトークイベントを開催。

開催日時	タイトル	会場	登壇者	参加者数
9月29日(日) 15:00~16:00	岡山神社で “蛇”について語り合う	岡山神社	大森 雅夫（岡山芸術交流実行委員会会長・岡山市長） 久山 信太郎（岡山神社宮司）	105人

シンポジウム 瀬戸内アートリージョンの可能性～岡山の芸術率先者達の地脈と役割

世界的にみても稀有な地域ともいえる岡山は、どのような芸術環境の歴史のもとにあるのか。またそれは瀬戸内地域や文化圏にとってどのような役割を担うのか。岡山から全国・世界に派生する芸術の率先者達が一堂に会し、瀬戸内を一つの芸術地域として世界に発信するプロジェクト「瀬戸内アートリージョンの可能性」について語った。

開催日時	タイトル	会場	登壇者	参加者数
10月5日(土) 18:00~20:00	瀬戸内アートリージョンの 可能性 ～岡山の芸術率先者達の 地脈と役割	岡山県立 美術館ホール	大原 あかね（公益財団法人大原美術館 理事長） 福武 英明 （株式会社ベネッセホールディングス 取締役 公益財団法人福武財団 副理事長） 石川 康晴 （岡山芸術交流2019総合プロデューサー 公益財団法人石川文化振興財団 理事長 株式会社ストライプインターナショナル 代表取締役社長）	210人

パブリックプログラム

大原美術館 現代アートツアー
～有隣荘特別公開「下道基行 漂泊之碑」、ARKO2019黒宮菜菜、分館を巡る

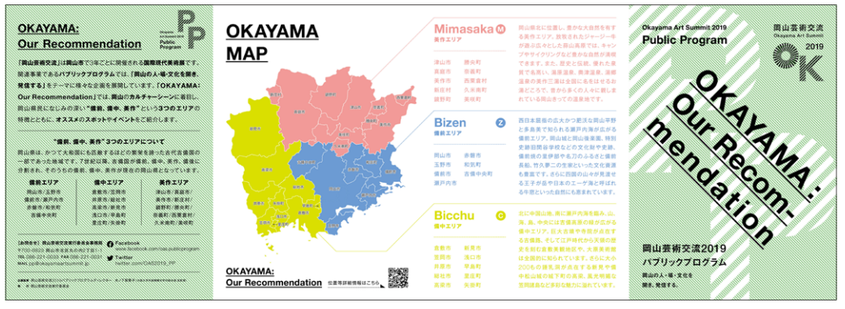
有隣荘では、岡山芸術交流2016の参加アーティストでもある下道基行氏がガイドとなり、公開中の作品について、制作した背景などを解説。また、大原美術館分館・本館では、大原美術館学芸課長の柳沢秀行氏から、今年度のARKO作品（黒宮菜菜）についての解説や、「21世紀に生きて躍動する美術館」としての大原美術館の精神など貴重な話を伺った。

開催日	タイトル	会場	ツアーガイド	参加者数
10月19日(土)	大原美術館 現代アートツアー ～有隣荘特別公開「下道基行 漂泊之碑」、 ARKO2019黒宮菜菜分館を巡る	大原美術館	下道 基行（美術家・写真家） 柳沢 秀行（大原美術館 学芸課長）	18人

下道基行《津波石》2015年

OKAYAMA:Our Recommendation

岡山のカルチャーシーンに着目し、岡山県を“備前、備中、美作”という3つのエリアに分けて、各エリアの特徴とともにさまざまなスポットやイベントの名称と住所といった最小限の情報を掲載した媒体を発行した。QRコードからはWEB上でマップや詳細情報を参照することができる。



パブリックプログラム

子どもナビと楽しむアートツアー

みるを楽しむ！アートナビ岡山との協働により、対話型鑑賞を用いた子どもたちの独自の視点で作品世界を深め、広げるナビゲートツアーを実施した。
子どもナビゲーターが大人をナビゲートできるように、各ツアー実施前に事前ワークショップを行った。対話によって視野が広がり、アートの前では大人も子どもも平等であることを実感できるツアーとなった。

※みるを楽しむ！アートナビ岡山とは
2015年に設立した、対話による芸術鑑賞を支援するボランティアグループ。
鑑賞会実施のほか、鑑賞ナビゲーター養成、教員・企業研修等を通してアートと人、人と人をつなぐお手伝いを目指す。

開催日	タイトル		鑑賞作品	子どもナビゲーター	参加者数
3月31日(火)	プレイベント	子どもナビと楽しむアートツアー01	プレイベント「A&C」	16人・サポーター7人	42人
8月25日(日)	プレイベント	子どもナビと楽しむアートツアー02	プレイベント「A&C」	3人	教職員7人
11月3日(日)		子どもナビと楽しむアートツアー03	旧内山下小学校会場	11人	52人

旧内山下小学校会場にて、子どもナビゲーター自ら、来場者にアートツアーの告知を行った。

立場や世代を超えたフラットな対話が生まれるツアー。事前ワークショップ2回と、ツアーを実施。2回のプレイベントで好評を博し、03では岡山芸術交流2019を舞台に開催した。

子どもナビゲーターが選んだ作品について、鑑賞者の意見や考えを引き出しながら、ツアー参加者全員での対話を楽しんだ。ナビゲーターからは「自分の思ったことを鑑賞者の人に伝えること、また他の人が感じたことも聞けて楽しかった。」といった声が挙がった。

鑑賞者から「一人で見るより様々な視点が見えてくるのが面白かった。」「子どもが話してくれると、大人も自分の感想や意見を伝えやすくなる。」「対話によって作品の印象が変わってくるのが面白い。」という声が多く聞かれた。

パブリックプログラム

対話型鑑賞 協働 みるを楽しむ！アートナビ岡山

開催日	タイトル	会場	ファシリテーター	参加者数
10月19日(土) 11月16日(土)	「みる×対話」鑑賞ツアー	旧内山下小学校 JOE's COFFEE	みるを楽しむ！アートナビ岡山	20人 13人
10月27日(日)	〈連携企画〉みるカフェ〜はじまりはアートで〜 「もっと岡山芸術交流2019を楽しみたいあなたへ」	無印良品 岡山ロッツ店4階 Open MUJI	みるを楽しむ！アートナビ岡山	16人

「みる×対話」鑑賞ツアー
旧内山下小学校会場の作品を鑑賞。作品の共通点や疑問点に注目しながら、参加者それぞれが作品を見て感じたこと、思い、気付きやイメージなどを自由に語り合った。その後はJOE's COFFEEに場所を移し、ツアー後の感想などを参加者同士で共有。

みるカフェ
参加者とともに、古代から1920年代までに様々な地域で制作された蛇にまつわる作品3作と、蛇をモチーフにした作品をスライドで鑑賞。ピエール・ユイグが提示したタイトル「もし蛇が」からインスピレーションを得て選ばれた蛇にまつわる作品について話し合った。

哲学カフェ 協働 松川えり（哲学者）

開催日	タイトル	会場	ファシリテーター	参加者数
10月 8日(火)	哲学カフェ 宝湯で考える「もし〇〇が」	宝泉相生湯	松川 えり	19人
10月18日(金)	アート哲学カフェ：ミルトーク「ミカ・タジマ《ヒューマン・シンス(岡山)》」	岡山市民会館	松川 えり	22人
11月 9日(土)	テツドク！ ニーチェ「ツァラトゥストラはこう言った」	古本喫茶一刻堂	松川 えり	20人

アート哲学カフェ：ミルトーク
岡山芸術交流2019の岡山市民会館の壁面に夜間だけ映し出される作品を深く鑑賞し、参加者全員で作品についての感想を共有した。

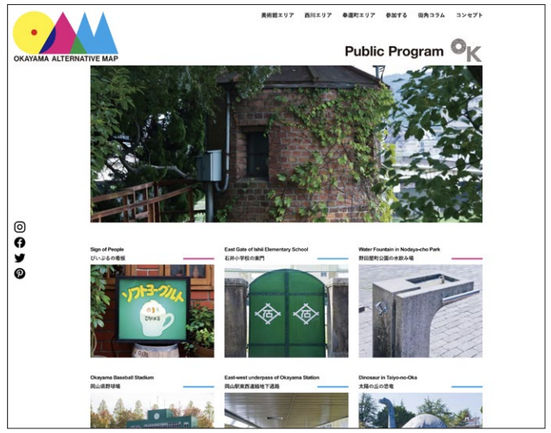
テツドク！
哲学者であるニーチェの『ツァラトゥストラはこう言った』を題材に「もし蛇が」のタイトルから蛇がどのような意味を持つのか、ニーチェにとって蛇とは等について参加者同士で自由に対話した。

パブリックプログラム

岡山芸術交流オルタナティブマップ

協働　桑田奈美枝（Satellite代表ギャラリスト）
軸原ヨウスケ（COCHAEデザイナー）
内海慶一（著述業、ライター）

2016年の岡山芸術交流パブリックプログラムの企画の中で「街歩きマップを作ってほしい」との依頼を受け、「オルタナティブマップ」を制作。さらに、2019では市内を回遊しながら岡山の魅力を“発見・探求・伝播”していただくために、街に点在する多種多様な見どころを独自の視点で編纂し、ウェブサイトで展開。街の中から「私の鑑賞作品」を見つける参加型プロジェクトも開催した。
展覧会で美術作品を鑑賞するように町並みを捉え直して歩いてみれば、何気ない日常の風景や事物が、人々の営みや創意工夫の込められた“逸品”として、あるいはコンセプチュアルアートに通じる問いかけのようにも感じられるだろう。
「岡山芸術交流オルタナティブマップ」は美術館エリア／西川エリア／奉還町エリアの3エリアで構成している。舞台となっている岡山市中心部には岡山のカルチャーシーンを牽引するスペースも多数ある。



岡山芸術交流オルタナティブマップ　街歩きイベント

開催日	タイトル	会場	ナビゲーター	参加者数
10月5日（土） 11月4日（月）振休	岡山芸術交流オルタナティブマップ みんなで見つけるおかやま街角鑑賞	KAMP 岡ビル市場	桑田 奈美枝 軸原 ヨウスケ 内海 慶一	36人 38人

ナビゲーターからオルタナティブマップの紹介、街の見方、楽しみ方についてレクチャーを受けた後、実際に街歩きに出かけた。

岡山駅前商店街や西川周辺に繰り出し、実際に街歩きをしながらそれぞれ見つけたものを撮影。インスタグラムで「#おかやま街角鑑賞」をつけて投稿した。

パブリックプログラム

ゲストトーク「思考と感性を拓く3つの鍵」

アートとは「社会を映す鏡」と言われている。今を生きるアーティストによる表現は同時代を色濃く反映した感性や知性、情報や技術に依るところが大きい。それらを読み解く鍵として“さまざまな現代”を探ることも有効だが、もっと大きな流れ、つまり世界や人類や生物史に関する考察も重要だ。そこでゲストトークでは、考古科学、進化生物学、文化人類学の3つの分野の専門家を招き、個々の“研究眼”という鍵を手がかりに、岡山芸術交流を多角的な観点で捉えるために思考や感性を拓く機会を考えた。

開催日	タイトル	会場	ゲスト	参加者数
10月27日（日）	考古科学編： 「古代オリエント」から知る 都市の成り立ち	岡山市立オリエント美術館 地下講堂	四角 隆二 （考古学者 岡山市立オリエント美術館 副主査学芸員）	30人
11月　3日（日）	進化生物学編： 昆虫の生き残り術に習う 創造的想像力	サウダーヂな夜	宮竹 貴久 （生物学者 岡山大学環境生物科学研究科教授）	25人
11月14日（木）	文化人類学編： 「野生の思考」でアートをみる ：自然・芸術・科学	奉還町4丁目 ラウンジカド	松村 圭一郎 （文化人類学者 岡山大学文学部准教授）	40人

考古科学編
四角隆二氏を招き、都市成立後の社会が生み出した人工物質であるガラスに焦点をあてたトークイベントを開催。

進化生物学編
宮竹貴久氏を招き、ダーウィンの進化論や、昆虫の死にまね、昆虫や植物の擬態などについて講演。

文化人類学編
松村圭一郎氏をゲストに迎え、フランスの人類学者レヴィ＝ストロースの著作『野生の思考』に焦点をあてたトークイベントを開催。

パブリックプログラム

共催企画

瀬戸内経済文化圏OPEN SUMMIT in 岡山

2017年より兵庫、愛媛と毎年サミットを開催。第3回目となる2019年度は、開催地を岡山に移し、「岡山芸術交流パブリックプログラム」の協力のもと開催した。
瀬戸内経済文化圏という新たな概念を発信し、若手クリエイター、アーティストの交流が生み出される場となることを目指している。
主催：瀬戸内経済文化圏

開催日	タイトル	会場	参加団体	参加者数
10月14日（日）	瀬戸内経済文化圏 OPEN SUMMIT in 岡山	CCCSCD	ディレクター / 服部 滋樹（graf） 原田 祐馬（UMA/design farm） 福　岡：白水 高広（うなぎの寝床） 岡　山：作元 大輔（cifaka.inc） 兵　庫：岩本 順平（DOR） ゲスト：石原 達也（特定非営利活動法人 岡山NPOセンター 代表理事） 小西 智都子（SETOUCHI SEAWIND inc. 代表取締役）	50人

岡山大学SiEED公開講座×岡山芸術交流2019パブリックプログラム
「アートから学ぶ新たな視点と思考-Visual Thinking Strategyで触れる岡山芸術交流2019」

Visual Thinking Strategy（VTS）は、アート作品の鑑賞を通じて鑑賞者同士で多様な意見を交わすことにより、現代の複雑化する社会において、様々な課題設定に求められる視野・観察力と、思考力を広げることを目的としたワークショップ。今回の公開講座では、岡山芸術交流2019の作品を題材に、参加者同士の意見交換を通して柔軟な思考のためのトレーニングを実践。オリエンテーション後、1時間ほど旧内山下小学校の作品を鑑賞。何が見えるか、何が聞こえるか、何を感じるかについてメモを取りながら鑑賞し、グループディスカッションでシェアし思考を深めた。
主催：国立大学法人 岡山大学SiEEDプログラム

開催日	タイトル	会場	講師	参加者数
11月17日（日）	岡山大学SiEED公開講座× 岡山芸術交流2019パブリックプログラム 「アートから学ぶ新たな視点と思考 -Visual Thinking Strategyで触れる 岡山芸術交流2019」	岡山市民会館 103会議室 旧内山下小学校会場	山下 哲也 （岡山大学SiEEDディレクター Silicon Valley Venture and Innovation 日本代表）	39人

瀬戸内経済文化圏OPEN SUMMIT in 岡山
「それぞれ明確なビジョンとアイディアをもって交流されていることに大変興味を持った」との感想が聞かれた。

岡山大学SiEED公開講座
参加者からは「アート作品とディスカッションを通して、自分の考えを理解した。」「アートを通じて社会の進化について考えられた。」との意見が寄せられた。

パブリックプログラム

クロージングイベント

岡山芸術交流が、岡山に住まう人々にとって、何を意味しどのように受け止められたのかを語り合ったクロージングイベント01。アートが身近になる一方で、真の芸術の役割とは何か、本質とは何か、改めて語り合い、芸術祭の課題と可能性に関する考察を深めたクロージングイベント02。2つのイベントから、岡山芸術交流とは何だったのかを検証。

開催日	タイトル	会場	登壇者	参加者数
11月23日（土）	クロージングイベント01 オープンミーティング 「終わりは始まり― “CCCSCD”で 岡山芸術交流を語り合う」	CCCSCD	片山 眞理（みるを楽しむ！アートナビ岡山代表） 久山 信太郎（岡山神社宮司） 桑田 奈美枝（Satellite代表／ギャラリスト） 松川 えり（哲学者） 作元 大輔（cifaka代表） 髙藤 邦子（運営スタッフ） 小林 真美（サポートスタッフ） 山口 陽子（学校鑑賞ナビゲーター）	30人
11月24日（日）	クロージングイベント02 ラウンドテーブル 「国際展と芸術祭の隆盛 ～その課題と可能性」	蔭凉寺	浅田 彰（批評家／京都造形芸術大学教授） 小崎 哲哉（アートジャーナリスト） 津田 大介（あいちトリエンナーレ2019芸術監督） 林 寿美（TRANS-ディレクター） 那須 太郎（岡山芸術交流2019総合ディレクター）	80人

クロージングイベント01
本展の締めくくりとして、それぞれが携わった内容の説明を経て、今後、岡山芸術交流がさらに発展していくための意見を交わしながら、展覧会全体を振り返った。

クロージングイベント02
批評家、都市型芸術祭のディレクター陣を招き、各芸術祭の比較や2019年の芸術祭の流れを振り返り、今後の可能性について考察を行った。

クロージング01終了後の懇親会にて「岡山芸術交流2019」作品をイメージしたお料理が提供された。

ラーニングプログラム

ラーニングプログラムとは、本展の意図や展示内容を補完し、さらには展覧会を契機とする、より広い視野にたった最先端の知識や教養への誘導を目的とするプログラム。岡山芸術交流参加アーティストの協力のもと、今回の展覧会の内容や背景を深く理解したいと積極的にのぞむ鑑賞者向けに設定されたプログラム。
アーティスティックディレクターであるピエール・ユイグ監修。

プレイベント Artists Talk ～参加アーティストは語る～

本展のプレイベントとして想定鑑賞者の興味を喚起しつつ、岡山芸術交流の目指す方向性の周知活動をも目的としたパネルディスカッション形式のトークイベント。アーティスティックディレクターを務めるピエール・ユイグをはじめ、本展の参加アーティスト数名が参加し、それぞれの岡山芸術交流に抱く思いや制作姿勢、岡山についての印象を語り合った。

開催日時	タイトル	会場	登壇者	参加者数
2018年 12月15日(土) 10:00～11:30	プレイベント Artists Talk ～参加アーティストは語る～	岡山国際交流センター 国際会議場	ピエール・ユイグ(アーティスティックディレクター) エティエンヌ・シャンボー ファビアン・ジロー&ラファエル・シボーニ ミカ・タジマ 司会:岡本源太(岡山大学大学院准教授)	約100人

原一男「極私的エロス 恋歌1974」上映

開催日時	タイトル	会場	概要	参加者数
9月27日(金) 12:00～13:50	原一男 「極私的エロス 恋歌1974」	シネマ・クレール丸の内	ファビアン・ジロー&ラファエル・シボーニが岡山芸術交流2019で発表した新作映像作品「反転資本」制作のインスピレーション源のひとつである原一男の作品を、ピエール・ユイグによるディレクションのもとシネマ・クレール丸の内で1回のみ上映した。	39人

グラスビードによるトークイベント、ワークショップ

開催日時	タイトル	会場	概要	参加者数
9月27日(金) 14:00～16:00	トークイベント	CCCSCD	参加アーティストグループグラスビードが、彼らの思考とその実践に深く影響を与えた国内外のアーティストや作家、哲学者などのゲストを招いて行うパネルディスカッションおよびディスカッション型のワークショップ。招待ゲストはアンナ・ロンゴ、パトリシア・リード、ダミヤン・ジョヴァノビッチ、ケイシー・レム、星野太の5名。	約50人
9月28日(土)、29日(日) 10:00～17:00	ワークショップ			約30人

岡山県立図書館にて岡山芸術交流特設コーナーを設置

岡山県立図書館および石川文化振興財団の協力のもと、図書館1階の人文カウンター前にて岡山芸術交流2019特設コーナーを設置。岡山芸術交流カタログやピエール・ユイグをはじめとする参加アーティストに関する定期刊行物など関連書籍約40冊を閲覧可能な状態で展示した。岡山芸術交流の広報活動と同時に、岡山芸術交流の鑑賞者に対して、知の収蔵庫としての県立図書館への関心を高めることを目的とした。さらに岡山芸術交流に来場した市の内外の小中学生の感想文「お気に入りカード」もあわせて展示、子どもの視線でとらえた岡山芸術交流の面白さを伝えることで、展覧会の楽しさを親しみやすくアピールすることにも試みた。(学校連携ページ参照)

グラスビードによる
トークイベント、ワークショップ
国内外のアーティストや作家、哲学者などのゲストが集った。

岡山県立図書館
岡山芸術交流特設コーナー

イベント

プレイベント及び会期中のイベント

(1) プレイベント ピエール・ユイグ
「Swarm」「Name Announcer」上演

岡山芸術交流2019アーティスティックディレクターに就任したピエール・ユイグのパフォーマンス作品
「Swarm」「Name Announcer」を上演。

[日時]
2017年11月18日(土) 14:30～16:30

[会場]
林原美術館(北区丸の内2-7-15)

[来場者数]
約160人

(2) プレイベント「A&C」

岡山芸術交流2016から継続展示されているリアム・ギリックの「多面体的開発」(展示場所:城下地下シンボルタワー)、ペーター・フィッシュリ ダヴィット・ヴァイスの「より良く働くために」(展示場所:岡山ランドリービル壁面)に加え、新たに4施設に5作品を展示した。

[展示期間]
2018年11月3日(土・祝)～2019年11月24日(日)

[展示場所]
岡山市立オリエント美術館、岡山神社、シネマ・クレール丸の内、林原美術館、城下地下広場、岡山ランドリービル

[料金]
鑑賞無料

[主催]
公益財団法人　石川文化振興財団

ヤン・ボー Danh Vo
我ら人民は(部分)
We The People(detail)

ライアン・ガンダー
Ryan Gander
摂氏マイナス261度
あらゆる種類の零下
Two hundred and sixty-one degrees below every kind of zero

ローレンス・ウィナー Lawrence Weiner
あっしゅくされた こくえんのかたまり このようなほうほうで
ぼうがいにかんして ちゅうせいしの ながれとともに あちら こちらに
BLOCKS OF COMPRESSED GRAPHITE SET IN SIXH A MANNER AS TO INTERFERE WITH THE FLOW OF NEUTRONS FROM PLACE TO PLACE

ダン・グラハム Dan Graham
木製格子が交差するハーフミラー
Wood Grid Crossing Two-way Mirror

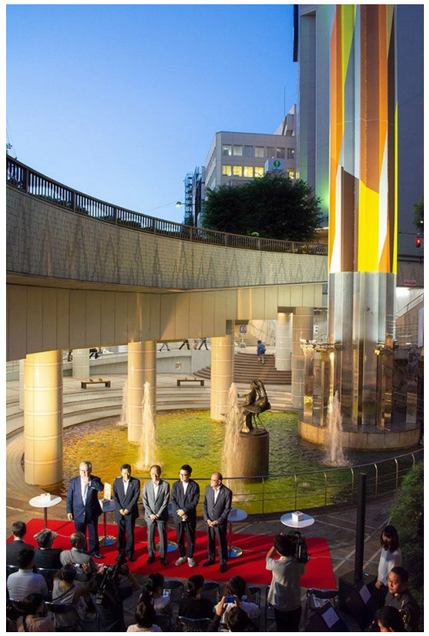
（3）開幕50日前記念イベント

開幕50日前を記念し、「岡山芸術交流2016」展示作品であるリアム・ギリック氏の作品《多面体的開発》のライトアップイベントを実施した。また、当日は「岡山芸術交流2019」参加作家のシーン・ラスペット（米国）が過去に制作した、食べられる芸術作品《Nonbar》を来場者に提供し、視覚だけでなく味覚を通してもアート作品を体験してもらった。

［日時］
8月8日（木） 19：00～19：35

［会場］
城下地下広場（北区丸の内1-1）

［参加者数］
約200人



（4）旧内山下小学校土俵開き

埋もれた郷土の魅力に光を当てる本展の取り組みの一環として、旧内山下小学校出身で大正期に活躍した横綱常ノ花が寄贈した土俵を、地元の相撲関係者の協力を得て土俵を修復。神事並びに土俵開きの後、地元の小中学生による奉納相撲を行った。なお修復した土俵には、パメラ・ローゼンクランツの作品が展示された。

［日時］
9月14日（土） 13：00～15：00

［場所］
旧内山下小学校（北区丸の内1-2-12）

［参加者数］
約60人

（5）夜間延長

夕暮れから夜の時間帯にかけて、日中とは異なる雰囲気での鑑賞を楽しむため、旧内山下小学校の夜間開館を行った。

［日時］
10月11日（金）～13日（日） 17：00～20：00
11月　1日（金）～　3日（日） 17：00～20：00

［延長会場］
旧内山下小学校（北区丸の内1-2-12）

［来場者数］
194人（内訳：10月11日／14人、12日／13人、13日／48人、
11月1日／26人、2日／35人、3日／58人）

（6）地元招待

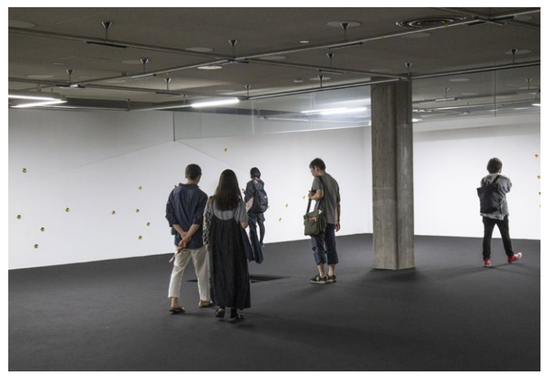
岡山芸術交流2019開催にあたり、賛同と協力をいただいた地域の方々に地元招待券を配布し、2日間無料で招待した。

［日時］
11月8日（金）、9日（土） 9：00～17：00

［招待地域］
内山下、深柢、弘西、南方地区にお住まいの方

［配布世帯数］
10,500世帯

［延べ来場者数］
1,627人（内訳：11月8日／484人、9日／1,143人）



イベント

（7）来場者数10万人＆20万人達成記念セレモニー

累計来場者数10万人及び20万人達成を記念して、セレモニーを実施。
該当の来場者に記念品を贈呈後、達成記念のボードを掲げ、記念撮影及びインタビューを行った。

●10万人達成

［日時］
10月18日（金） 9：30～

［場所］
旧内山下小学校校舎2階

●20万人達成

［日時］
11月6日（水） 9：30～

［場所］
旧内山下小学校プール

5 連携事業

マシュー・バーニー「リダウト」上映
参加作家であるマシュー・バーニーの映像作品「リダウト」を上映。

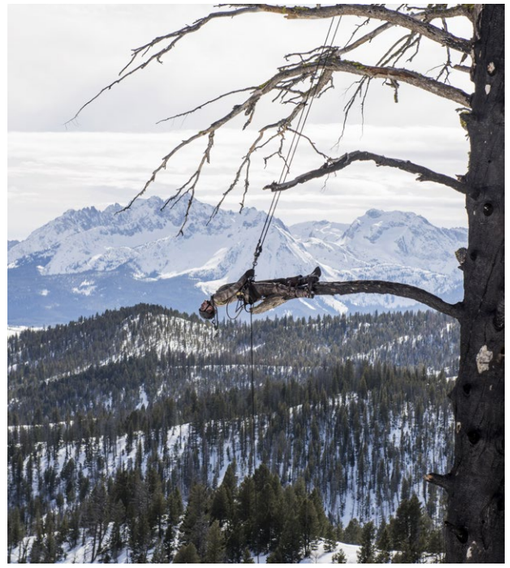
［日時］
11月23日（土） 15：50～18：04

［会場］
シネマ・クレール丸の内（北区丸の内1-5-1）

［来場者数］
64人

［料金］
一般：1,800円、学生：1,500円、65歳以上：1,200円、
高校生以下：1,000円
※岡山芸術交流2019鑑賞券では入場不可。

［その他］
配給：トモ・スズキ・ジャパン
後援：アメリカ大使館、岡山芸術交流実行委員会



Matthew Barney, Redoubt, 2018. Production still. c Matthew Barney, courtesy Gladstone Gallery, New York and Brussels, and Sadie Coles HQ, London. Photo: Hugo Glendinning

Ⅷ 来場者の状況

来場者の状況

延べ来場者数：311,731人

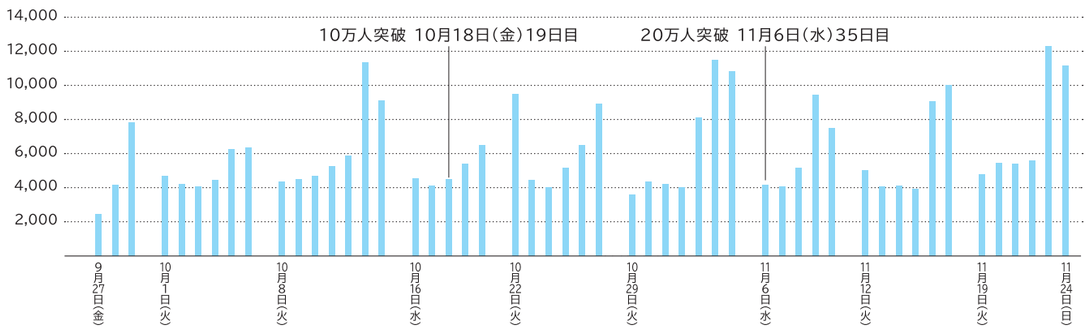
有料施設別来場者数：計85,127人

会場	人数
旧内山下小学校	19,337人
岡山県天神山文化プラザ	11,317人
岡山市立オリエント美術館	15,544人
旧福岡醤油建物	8,326人
林原美術館	12,124人
岡山城	16,088人
シネマ・クレール 丸の内	2,391人

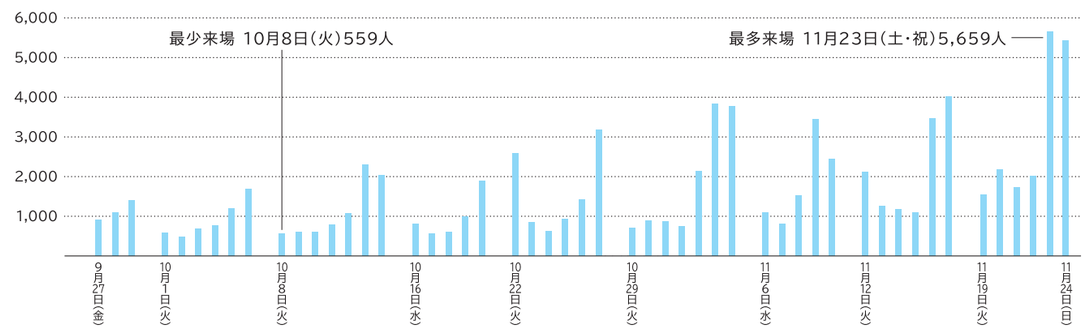
無料施設・屋外展示：計226,604人

会場	人数
石山公園・旭川	86,995人
RSK外壁	26,174人
岡山城堀	21,691人
RSK外壁、市民会館外壁（夜間）	9,130人
岡山駅インフォメーション	12,732人
岡山神社	6,999人
城下周辺A&C3作品	62,883人

延べ来場者数推移



有料施設来場者数推移

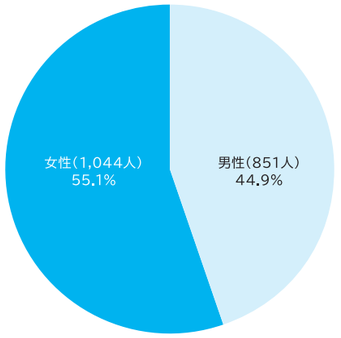


来場者アンケート調査

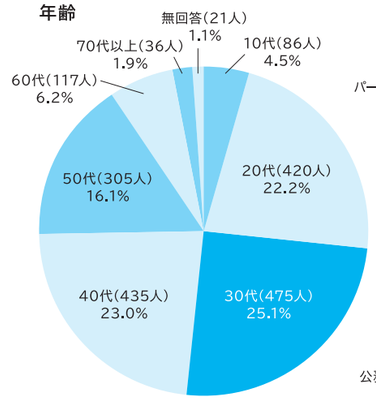
来場者の属性、評価、意見などを把握するため、旧内山下小学校、旧福岡醤油建物、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエント美術館、林原美術館の5会場において来場者へのアンケート調査を実施した。（回答者数 1,895人）

○ 性別は女性が約55%で、10代～40代の層で全体の4分の3を占めている。
○ 岡山市内からの来場が約4割を占め、県内からは倉敷などの県南部からが大半である。
○ 県外からの来場は約4割で、関東（東京）、関西（大阪・京都・神戸）など大都市圏が中心となっている。
○ 海外からは6.8%を占め、前回（2.0%）に比して3倍以上の伸びとなった。
○ 県外客のほとんどが飛行機や鉄道利用と思われ、宿泊客が約32%（前回：約20%）を占めている。
○ 会場間の移動は圧倒的に徒歩が多く、旧内山下小学校の会場を中心に複数会場を鑑賞している。
○ アート目的による来市がほとんどで、瀬戸内国際芸術祭も訪問している来場者も多く見られる。
○ 総合評価は「とても良い」・「まあ良い」が全体の9割を占めており、次回来場意欲も高い。

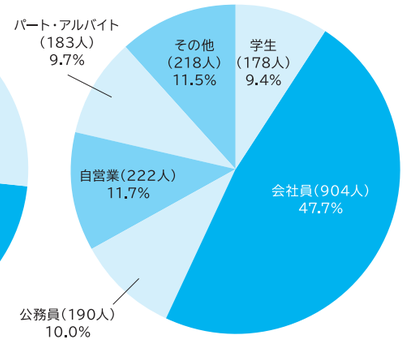
性別



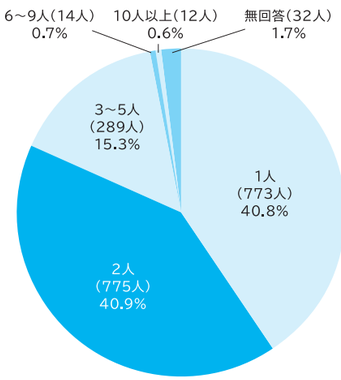
年齢



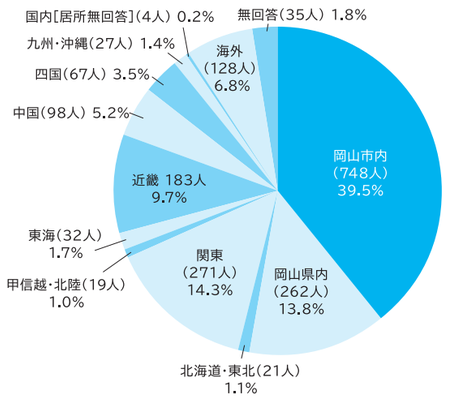
職業



来場人数



お住まい

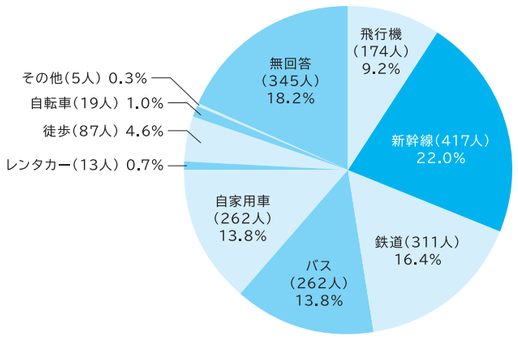


※国内は青森、山形、福島を除く44都道府県から来場の回答
※海外は台湾（41）、韓国（14）、中国（12）、アメリカ（10）、オーストリア（9）、フランス・ドイツ（以上各6）、カナダ（5）、香港（4）、シンガポール・タイ（以上各3）、イタリア（2）、スペイン・イギリス（各1）、その他海外（11）から来場の回答

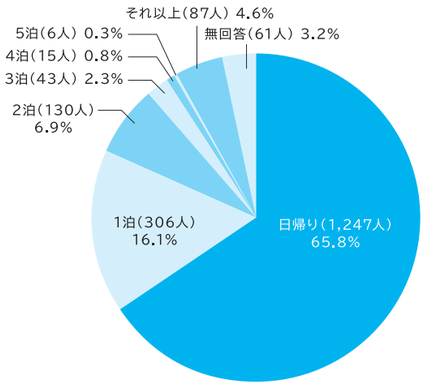
来場者アンケート調査

●交通・宿泊

交通手段

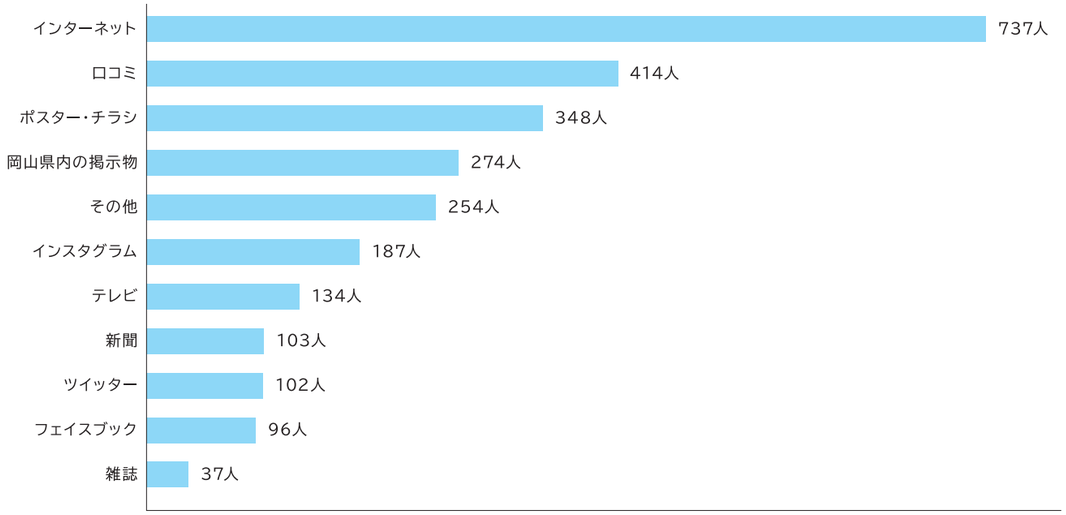


滞在日数



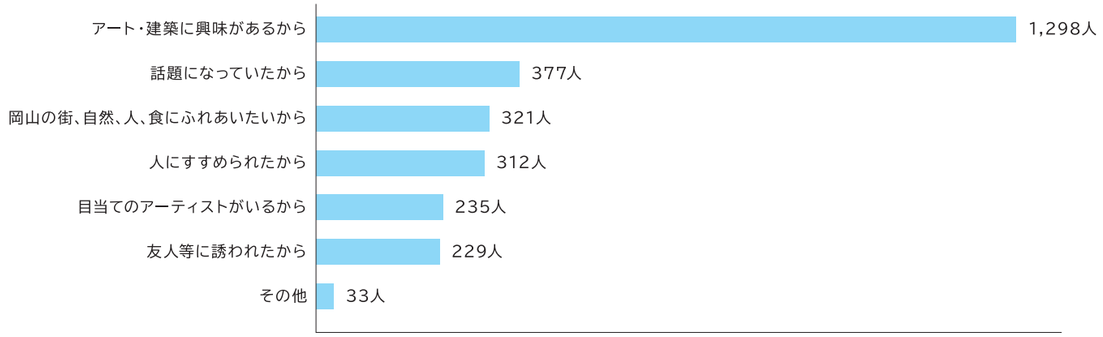
●来場のきっかけ

今回の芸術交流をどのようにしてお知りになりましたか（複数回答）



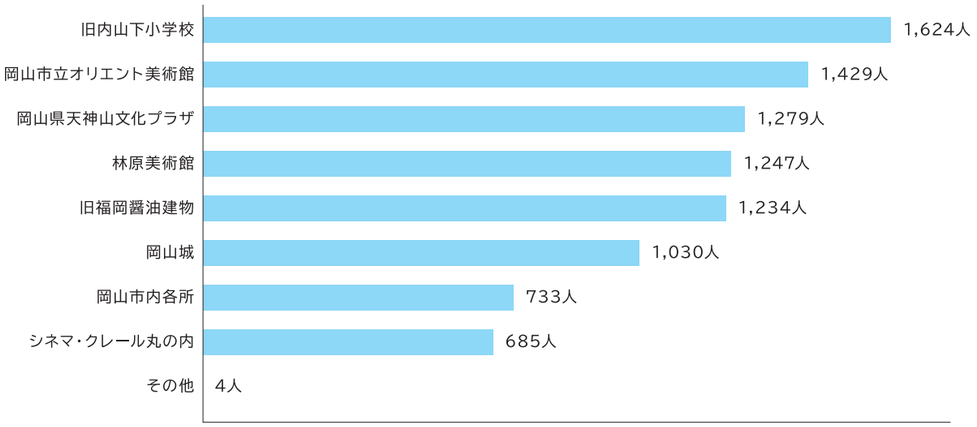
来場者アンケート調査

ご来場の動機（複数回答）

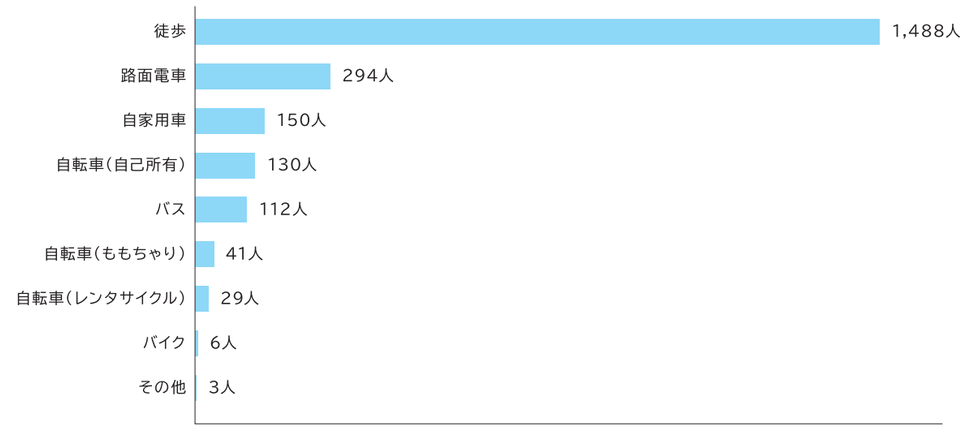


●鑑賞・評価

どの会場を鑑賞しましたか（複数回答）

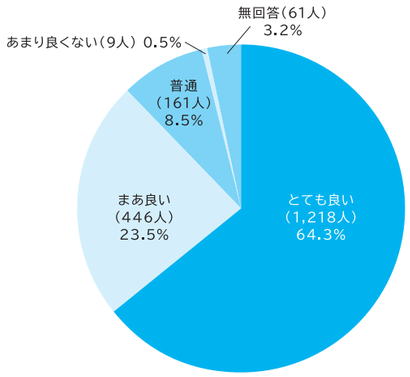


会場間の移動手段（複数回答）

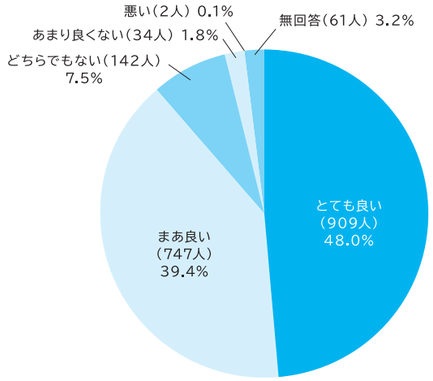


来場者アンケート調査

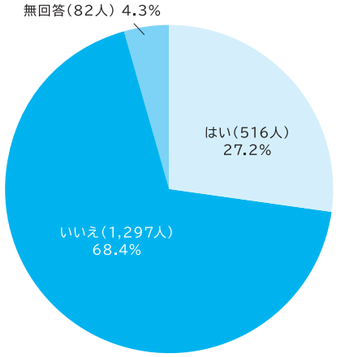
スタッフの対応



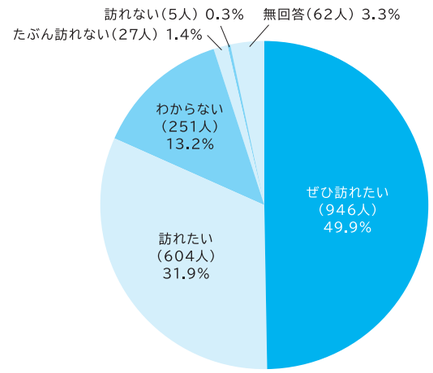
岡山芸術交流の総合評価



岡山芸術交流2016には来場されましたか

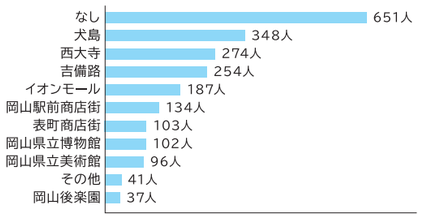


次回の岡山芸術交流にも訪れたいですか

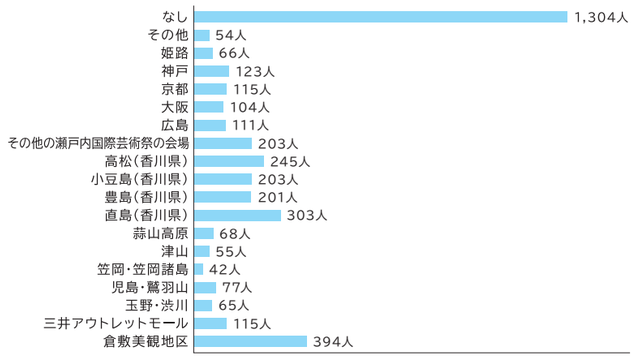


●岡山芸術交流2019以外の訪問

岡山市内の観光地など（複数回答）



岡山市外の観光地など（複数回答）



来場者アンケート調査

●自由記述

評価

○ 作品に関するもの
- 質の高い海外作家の作品が多く、キュレーションがとてもアートとして考え抜かれた非常にレベルの高い表現を街につくりだしていた。
- 展示が攻めている（賛辞）
- 前回と比べて、夜間でも展示されている作品が多く、昼とは違う見方ができて面白いと感じた。
- 哲学的要素もあり、考えてみることができ新鮮だった。
- ここ岡山で素晴らしいアート作品に出会え、嬉しいです！

○ 会場配置に関するもの
- 会場がコンパクトにまとまっているので時間を有効に使えるのがいい。
- 岡山の街を歩きながら現代アートに触れられたのがとても良かったです。
- 岡山市民ですが、岡山芸術交流を通して見慣れた岡山の街に非日常の空間が作られたような感覚でとても新鮮でした。
- まちが生き生きして見えます。ぜひアートを通して少しずつでも岡山の街と人の意識を変えていって欲しいです。
- 歩き慣れた道をいつもとは違う気分で歩けます。芸術に触れると開放されるのでしょうか。

○ スタッフに関するもの
- スタッフの皆さんの声掛けがとても良いです。嬉しかったです。
- ボランティアさんの印象がとても良かったです。皆さん親切！
- 子どもナビゲーターに親切にしてもらえ、親子で楽しくすごせています。

課題

○ 作品に関するもの
- 一般の人に分かるように説明が欲しい。
- 作品の説明が小さく、文章が難解です。子供からお年寄りまで分かりやすい説明が欲しい。
- 難しい作品が多かったです。
- パブリックアートを増やして欲しい。
- 前回よりも良い意味でも悪い意味でも一般の人々を突き放している芸術祭だと思います。次回以降、いい意味の方で、よりその特色が活かされるような芸術祭になることを望みます。

○ 会場内外の案内に関するもの
- 会場がどこにあるかわかりづらいので、導線を記した地図があると良い。
- 展示アートと解説ボードが離れていて、わかりにくい。
- 初めて訪れた人でもわかる案内を街なかに掲出してほしい。
- ウェブサイトや地図のグラフィックが分かりにくいです。

○ 告知・宣伝に関するもの
- 事前のインフォメーションが少なすぎると思う。難解な作品が多いので予習出来るようにして欲しい。
- 告知物（ウェブサイト・チラシ・マップなど）が分かりにくい。
- カタログに写真だけでなく、もう少し詳しい解説など記載して欲しかった。
- 公式ホームページから各会場の待ち時間などが分かればありがたい。

IX 効果

経済波及効果とパブリシティ効果

経済波及効果

岡山芸術交流2019の開催により、岡山県内分で約22.6億円、岡山市内分で約13.9億円の経済波及効果があったと推計した。

経済波及効果の推定結果（一般財団法人岡山経済研究所 推計）

1. 岡山県内分

		直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
県内事業費		193百万円	55百万円	50百万円	299百万円
来場者消費額	有料施設	135百万円	48百万円	29百万円	212百万円
	無料施設のみ	1,129百万円	396百万円	232百万円	1,757百万円
合計		**1,458百万円**	**499百万円**	**312百万円**	**2,268百万円**

2. 岡山市内分

		直接効果	第1次波及効果	第2次波及効果	総合効果
市内事業費		178百万円	53百万円	53百万円	284百万円
来場者消費額	有料施設	86百万円	21百万円	23百万円	129百万円
	無料施設のみ	658百万円	168百万円	157百万円	983百万円
合計		**922百万円**	**241百万円**	**233百万円**	**1,396百万円**

※直接効果・・・・・・・岡山芸術交流の事業費及び来場者による県内（市内）消費額によって、県内（市内）産業部門に直接に生産を誘発する効果。
※第1次波及効果・・原材料を他産業から購入することによって起こる生産誘発額効果。
※第2次波及効果・・直接効果と第1次波及効果によって誘発された生産から生み出された雇用者所得が新たな消費に向けられることにより、
再び生産を誘発する効果。

パブリシティ効果

岡山芸術交流2019の開催に係るメディア報道におけるパブリシティ効果（広告費換算額）は、約13.9億円であったと推計した。

パブリシティ効果の推計結果（株式会社電通西日本岡山支社 推計）

種別	掲載・放映件数	総合効果
新聞（記事）	179件	201百万円
テレビ	124件	248百万円
ラジオ	14件	7百万円
雑誌・フリーペーパー	33件	41百万円
ウェブサイト	855件	898百万円
合計	**1,205件**	**1,394百万円**

※各媒体において、掲載・放映された枠を広告出稿した場合の料金や媒体価値を1件ごとに算出・推定し、その合計額をパブリシティ効果の推計値とした。

岡山芸術交流2019の評価

◎新聞・雑誌・ウェブサイト

山陽新聞／令和元年11月15日
岡山芸術交流2019 視線振ると違う世界に
岡山の町の奥、あるいは裏に隠されているもう一つの正解を発見した、という感じではない。むしろ、目を向ける先をちょっと横に振ってみるだけで、見慣れた町の風景ががらっと変わってしまう、という感じ。
さまざまな事物が絡み合ってできているこの世界。そこにいつもは見えていないもう一つの生命体としての世界の相を表す。それが今回の芸術交流で行われていることだ。見えてしまったその世界は、蛇のように少々不気味、かもしれないが。
世界に意味を探すのが、われわれ一人一人がまさに生きているということ。子供も大人も変わらない。だから、この芸術交流は子供もわかるし大人も同じように分かる。あるいは、子供も分からないし大人も同じように分からない。だから説明はいらない。世界はそこに投げ出されているだけ。
開会式でのユイグのあいさつは、その意図をそのまま伝えていたのだ。

毎日新聞　夕刊／令和元年10月21日
変容を続ける世界への扉 9か国18組 最先端の現代アート
岡山市で、現代美術の最先端が集結する「岡山芸術交流2019」が開かれている。
テーマや作家の選定を担うアーティスティックディレクターには、前回（2016年）に続き、世界的に活躍する現代美術家が招かれた。
強い個性がそのまま形になることが、本展の強みだ。
会場は全て歩いて回れる。町の音や鳥の声を聞きながら、作品世界と日常の間を行きつ戻りつするのも醍醐味だ。

朝日新聞／令和元年10月30日
日没とともにうつろう表情 旧内山下小学校 来月1～3日夜間延長
アーティスティックディレクターのピエール・ユイグは、今回の美術展を「独立した一つの生命体」としており、水面に映るカエルも文章に記されている。しかし、太陽の下で映るのは、もっぱら周囲の樹木とプールサイドを歩く人たち。プールとカエル、人間の関わりを感じるには、日が暮れてからの方がふさわしいのではないか。
ロダンの「考える人」の複製から人間部分を取り去ったエティエンヌ・シャンボーの「微積分／石」は砂山の間に置かれ、作品の間をダンサーが月明かりに照らされながら歌い踊る。

産経新聞／令和元年10月20日
生命体としての芸術祭　岡山市中心部で開催
各地で増殖する芸術祭のうち、やや異質の存在として現代美術ファンを中心に注目されているのが岡山市中心部で開催中の「岡山芸術交流」だ。
タイトルがまず謎めいている。「IF THE SNAKE もし蛇が」。ユイグ氏は同芸術祭を「独立した一つの生命体」と語る。明確なテーマというより、物語のような何かが展覧会全体を包んでいる。
生命とテクノロジー。見えるものと見えないもの。時間の概念の広がり。変容し続ける世界…。各作家の作品は独立しながらも、表現内容でゆるやかにつながっている。
作品を見て回るだけで知的興奮を得られるのは、かなりのアート通だろう。一方でアートツアー、トークイベントなど、ユニークなプログラムが同芸術祭には用意されている。こうしたきめ細かい取り組みによって、市民や子供たちの創造の芽を育むとしたら、意義ある芸術祭となるだろう。

美術手帖（ウェブサイト版）／令和元年11月8日
スーパーオーガニズムは、電気仕掛けの人間の夢を見るか？ 岡山芸術交流2019「もし蛇が」
動物寓話のような想像力とアルゴリズムが生成するCG画像のメタモルフォーゼを通して、科学と生命、地域と労働、資本主義の過去と未来を思考するための開かれた実験場が、今回の岡山芸術交流だろう。グラスビードによるエッセイやワークショップとともに、地域住民参加による映像制作やパブリックプログラムの充実は、開かれた芸術展の役割を補っている。「もし蛇が」という本展のタイトルは、続く文章が、将来の可能性に開かれた想像力の余白として残されている。アーティスティック・ディレクターは仮のエッセイを綴っているが、将来、別の物語がAIによって書かれるかもしれないし、また本展を目撃した人々の数だけ新しい物語が紡がれるはずだ。

岡山芸術交流2019の評価

VOGUE（ウェブサイト版）／令和元年10月28日
岡山芸術交流2019――乱立する芸術祭のなかで、アートの意義を思索する
岡山城・岡山後楽園周辺のコンパクトなエリアにおさまる規模ながら、初回同様、国際的アートシーンの先鋭を垣間見ることのできる、思いきり“尖った”都市型芸術祭となった。
2016年の第1回は、アーティスティックディレクターに英国人アーティストのリアム・ギリックを迎え、「開発 Development」をテーマに31組のアーティストが参加した。
あれから3年。政治や社会、環境やテクノロジーの側面から見た世界地図は驚くほど混沌とした状況に変容し、それにともない国際的なアートシーンも変化した。今年開催されている“現代美術のオリンピック”ヴェネツィア・ビエンナーレでも、中東、アジア、中南米、アフリカなどから、かつてないほど多くの気鋭のアーティストたちがメインの企画展に招聘され、重要な位置づけで紹介されている。彼らの抱える「主題」はいまや世界全体の「問題」である。この傾向は欧米文脈の“大文字の”アートに、新たな潮流が一気に流れ込みつつあることを力強く示している。
そんな世界情勢を背景に開催された岡山芸術交流。「IF THE SNAKE もし蛇が」という、あまりにシュール過ぎて寓意をまったく読み取れないタイトルを掲げ、フランス人アーティスト、ピエール・ユイグがアーティスティックディレクターを務める。
展覧会全体の印象をあえて雑にまとめるなら、岡山市内に点在する各会場ごとにラボが設置され、最先端テクノロジーを駆使した実験場と化した形だ。「展覧会を独立したひとつの生命体ととらえる」とユイグが表明したように、作家同士、作品同士が相互に関連しあい、影響を与えることを目指している。
その結果、表現形態やアプローチは意図的に共有され、全体のトーンはおのずと絞り込まれた。トータルで度々「さっき観た作品の続きみたいな気がする」既視感を覚えることは否めないが、それもまた本芸術祭の特徴といえるかもしれない。

◎受賞

岡山芸術交流2019が「ASIA ART PIONEERS / PUBLIC ART PROJECT OF THE YEAR ASIA」を受賞
1年を通して世界のアートシーンに貢献したアジアの団体やアーティスト、プログラム、展覧会などを表彰する「ASIA ART PIONEERS※」の各賞が、上海アートウィークが開催された中国・上海にて2019年11月8日に発表され、岡山芸術交流2019は「PUBLIC ART PROJECT OF THE YEAR ASIA」（パブリックアート プロジェクト オブ ジ イヤー エイジア）を受賞した。

※「ASIA ART PIONEERS」とは
グローバル専門誌「THE ART NEWSPAPER CHINA」「ART Review Asia」「LEAP（中国）」などを所有するModern Media社（中国）が、各誌における1年のレポートや評論などを基にアジアのアートシーンのトレンド／潮流をアーカイブするとともに、作品制作、研究、芸術の促進を目的に設立されたもの。

ASIA ART PIONEERS 亚洲艺术贡献奖

Dear Okayama Art Summit 2019,

We are delighted to be sending you this award commemorating your selection as Public Art Project of The Year for the inaugural edition of the Asia Art Pioneers, powered by Modern Media, which was launched at a ceremony in Shanghai this past November.

Founded by Modern Media, Asia Art Pioneers is an annual event, established with the goal of encouraging artistic production, research and exchange within the region, and the promotion of contemporary Asian culture around the world. It is co-organized by *The Art Newspaper China*, *ArtReview Asia* and *LEAP*, the international art titles owned by Modern Media. The editors-in-chief of the three publications served as jurors for this inaugural edition. Asia Art Pioneers honours individuals, institutions, programs and exhibitions that advocate global dialogue, champion innovation, and take the lead in cross-boundary collaboration and social engagement in both China and Asia at large.

Combining the distinctive viewpoints of the three titles and the art resources of Modern Media, these awards are the culmination of a year's worth of reports and critiques that have appeared on their pages and websites, as well as an indicator of some of 2019's key trends, achievements and overall development within the region. Moreover, the Asia Art Pioneers awards extends Modern Media's commitment to one of its key goals: to give a greater visibility to art from Asia in general and from China in particular within the international art community.

We would like to extend our personal congratulations on all your achievements and accomplishments over the past year and wish you continued success in the new year ahead.

With best wishes,

Cao Dan
Publisher
LEAP & The Art Newspaper China

Ye Ying
Editor-in-Chief
The Art Newspaper China

Mark Rappolt
Editor-in-Chief
ArtReview and ArtReview Asia

X 実行委員会

岡山芸術交流実行委員会

会長
大森 雅夫（岡山市長）

副会長
佐藤 兼郎（岡山県副知事）
松田 久（岡山商工会議所会頭）

監事
宮長 雅人（㈱中国銀行取締役会長）

総合プロデューサー
石川 康晴（公益財団法人石川文化振興財団理事長／㈱ストライプインターナショナル代表取締役社長）

総合ディレクター
那須 太郎（TARO NASU代表／ギャラリスト）

アーティスティックディレクター
ピエール・ユイグ（アーティスト）

パブリックプログラムディレクター
木ノ下 智恵子（大阪大学共創機構社学共創本部 准教授）

顧問
浦上 雅彦（岡山市議会議長）
越宗 孝昌（㈱山陽新聞社取締役会長）
槇野 博史（国立大学法人岡山大学学長）

委員
石井 清裕（公益社団法人おかやま観光コンベンション協会会長）
山田 寛人（岡山カルチャーゾーン連絡協議会会長）／槇野 博史（大学コンソーシアム岡山会長）
松田 正己（㈱山陽新聞社代表取締役社長）／桑田　茂（RSK山陽放送㈱代表取締役社長）
中静 敬一郎（岡山放送㈱代表取締役社長）／土井 雅人（テレビせとうち㈱（代表取締役社長）
永山 久人（公益社団法人岡山県バス協会会長）／梶川 政文（一般社団法人岡山県タクシー協会会長）
有田 泰弘（西日本旅客鉄道㈱岡山支社支社長）／石川 康晴（公益財団法人石川文化振興財団理事長）
荒島 茂樹（岡山市市民生活局長）／赤坂　隆（岡山市産業観光局長）／菅野 和良（岡山市教育長）

（令和元年9月現在の構成員）

事業の収支状況

2018年度事業費内訳（決算）

［収入］　［単位：千円］

区分		金額
負担金		50,000
	岡山市	25,000
	公益財団法人石川文化振興財団	25,000
補助金・助成金		1,000
諸収入		32
前年度繰越金		14,672
合計		① 65,704

［支出］　［単位：千円］

区分		金額
アートプロジェクト費		42,102
	作品制作関連費	
	ディレクター費	
	イベント関連費	
運営活動費		
	運営スタッフ費	8,993
	広報費	9,120
	運営活動費	3,378
合計		② 63,593

※収支差額（①-②） 2,111千円は2019年度へ繰越

2019年度事業費内訳（決算見込み・2月末日現在）

［収入］　［単位：千円］

区分		金額
負担金		250,000
	岡山市	100,000
	岡山県	50,000
	公益財団法人石川文化振興財団	100,000
補助金・助成金		86,730
協賛金		121,620
チケット等販売収入		45,432
諸収入		0
前年度繰越金		2,111
合計		505,893

［支出］　［単位：千円］

区分		金額
アートプロジェクト費		315,585
	作品制作関連費	276,659
	ディレクター費	21,752
	イベント関連費	17,174
運営活動費		174,672
	会場運営費	63,618
	広報費	84,767
	事務局運営関連費	26,287
合計		490,257

補助金

日本博
文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
Supported by the Agency for Cultural Affairs
Government of Japan in the fiscal 2019

助成金

一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for Regional Art-Activities

公益財団法人アイスタイル芸術スポーツ振興財団
損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)
公益財団法人吉野石膏美術振興財団

協賛

中国銀行　ジーエフ　JR西日本
MIZUHO　山陽新聞社　STRIPE Int'l
RSK　OHK　TSC
Marketo An Adobe Company　CREDIT SUISSE　大和証券 Daiwa Securities　hap Inc.　HEARTS　Mercedes-Benz　日鉄物産 NIPPON STEEL TRADING　野村證券
Rakuten 楽天証券　SAPIX 総合環境クリエイト　SoftBank　SP PACK　TOMIYA　TOYOTA 岡山県トヨタ販売店グループ　小屋やさん 株式会社 植田板金店　VEST CO.,LTD.

株式会社クリシー
一般財団法人林原美術館
スタイレム株式会社
トランスコスモス株式会社
株式会社コスモ・コミュニケーションズ
株式会社エムファースト
松竹株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社デンショク
マネックス証券株式会社
太陽建設株式会社
セコム株式会社
株式会社エフリード
株式会社ニットファクトリー
東洋証券株式会社
豊島株式会社

作品協力

OHNIT Challenge to the future — オゾンの可能性を科学する オーニット株式会社
D&T Farm　福花園種苗株式会社　FERROTEC 株式会社 フェローテック ホールディングス
Canada Council for the Arts　Conseil des arts du Canada　pilar Corrias　GALERIE CHANTAL CROUSEL　THOMAS DANE GALLERY
MARIAN GOODMAN GALLERY　HAUSER & WIRTH　kurimanzutto　TARO NASU　Esther Schipper　SPRÜTH MAGERS

後援

EMBASSY OF BELGIUM IN TOKYO
INSTITUT FRANÇAIS アンスティチュ・フランセ日本 Japon
Ambasáid na hÉireann | An tSeapáin
Embassy of Ireland | Japan
駐日アイルランド大使館
レバノン共和国大使館
MÉXICO
Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra
Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館
駐大阪・神戸米国総領事館
ブリティッシュ・カウンシル